

予期せぬ**災害**に備えて

2つの訓練を実施

固危機管理課 ☎(235)4790

大地震・ゲリラ豪雨・猛烈な台風・大雪などのいつ発生するか分からない災害に備え、いざという時どのように行動すればよいのか日頃から訓練することが大切です。市も災害時に市内で起こり得る事態を想定し、1月に職員対象の2つの訓練を実施しました。



訓練1 熊本地震を教訓に 本番さながらの実践

災害対策本部 オペレーション センター訓練

災害発生時に、規模や被害の見通しなどに応じて市が設置する「災害対策本部」。市は職員の災害対応能力向上のため、毎年2回、内容を变えながら「災害対策本部オペレーションセンター訓練」を実

施しています。

平成28年4月の熊本地震では震度7の大地震が2度発生し、熊本県内の5市町の庁舎が損壊で使用不可能となりました。このことで災害対応に遅れが生じ、通常業務にも大きな支障をきたしたことから、6回目の今回は初めての屋外訓練を実施。市庁舎および消防庁舎への立ち入りができない状況を想定し、海老名警察署・陸上自衛隊など関係機関の参加も得ながら災害対策本部のテントで図上訓練を行いました。



電気が使えない想定の中、「鉄道が運休」「市道が通行不可」など情報が次から次へと流れる



訓練2 海老名駅で

帰宅困難者対策訓練

勤務先や外出先などで災害に遭遇し、自宅に帰れない「帰宅困難者」。鉄道が3線通る海老名市では、災害などで鉄道が運休すると9000人以上の帰宅困難者が発生することが想定されています。海老名駅では、「災害対策本部オペレーションセンター訓練」と併せて鉄道事業者や海老名警察署、鉄道警察隊、大規模商業事業者などとともに災害対策本部と連携した実動訓練を実施。約60人が参加し、負傷者の応急処置や帰宅困難者の避難誘導などを行いました。



避難所施設で模擬体験を

避難所運営訓練

災害時に避難施設となる学校やコミュニティセンターなど、全ての避難所予定施設で行う避難所運営訓練。地域と行政、学校関係者などが協力しながら仮設トイレの設営など一連の活動を模擬体験します。ことしの予定は改めて本誌で案内します。ぜひご参加ください。



プッシュ型 支援に 備えて

南部大型防災備蓄倉庫の 隣地を整備



大型防災備蓄倉庫に隣接した約2,700㎡の土地を整備。平常時は消防訓練などに使用

被災自治体の要請を待たずに国が直接被災地に物資を送る「プッシュ型支援」。災害時には非常食や飲料水、毛布など膨大な支援物資を積んだ大型トラックの往来が想定されます。市ではこのようなプッシュ型支援に備え、杉久保北にある南部大型防災備蓄倉庫の隣地を支援物資の集積場として整備しました。



3月14日 Jアラートによる 全国一斉緊急情報の 伝達試験を実施

大地震や外国による弾道ミサイル発射などの緊急時に情報を確実に伝えるため、国がJアラート(全国瞬時警報システム)の試験放送を行います。防災行政無線をはじめ、防災ラジオからも試験放送が流れますので、災害と間違えないように注意してください。

3月14日(水)11時頃